

# 明日への道標

～マンガ制作.comが大切にすること～

第一話



滋賀県東近江市で  
七代続く商家に  
産まれたマサハル



そんな  
マサハルに  
継がせる店の  
将来を案じて  
いた父親は

たまりかねて  
苦言を呈する  
ことが  
度々あった

何不自由ない生活で  
ワガママ放題に  
育ったので  
我慢することを  
知らない



しかし  
マサハルは

商売なんて  
簡単さ！  
ヨユーだって



耳を  
傾けようと  
しない

そして  
ある日の  
こと

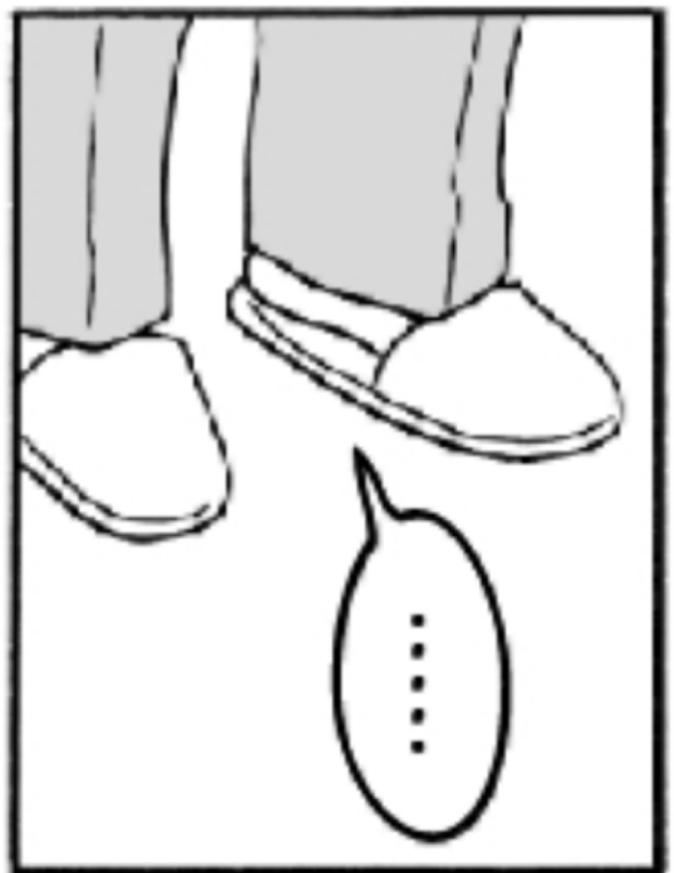


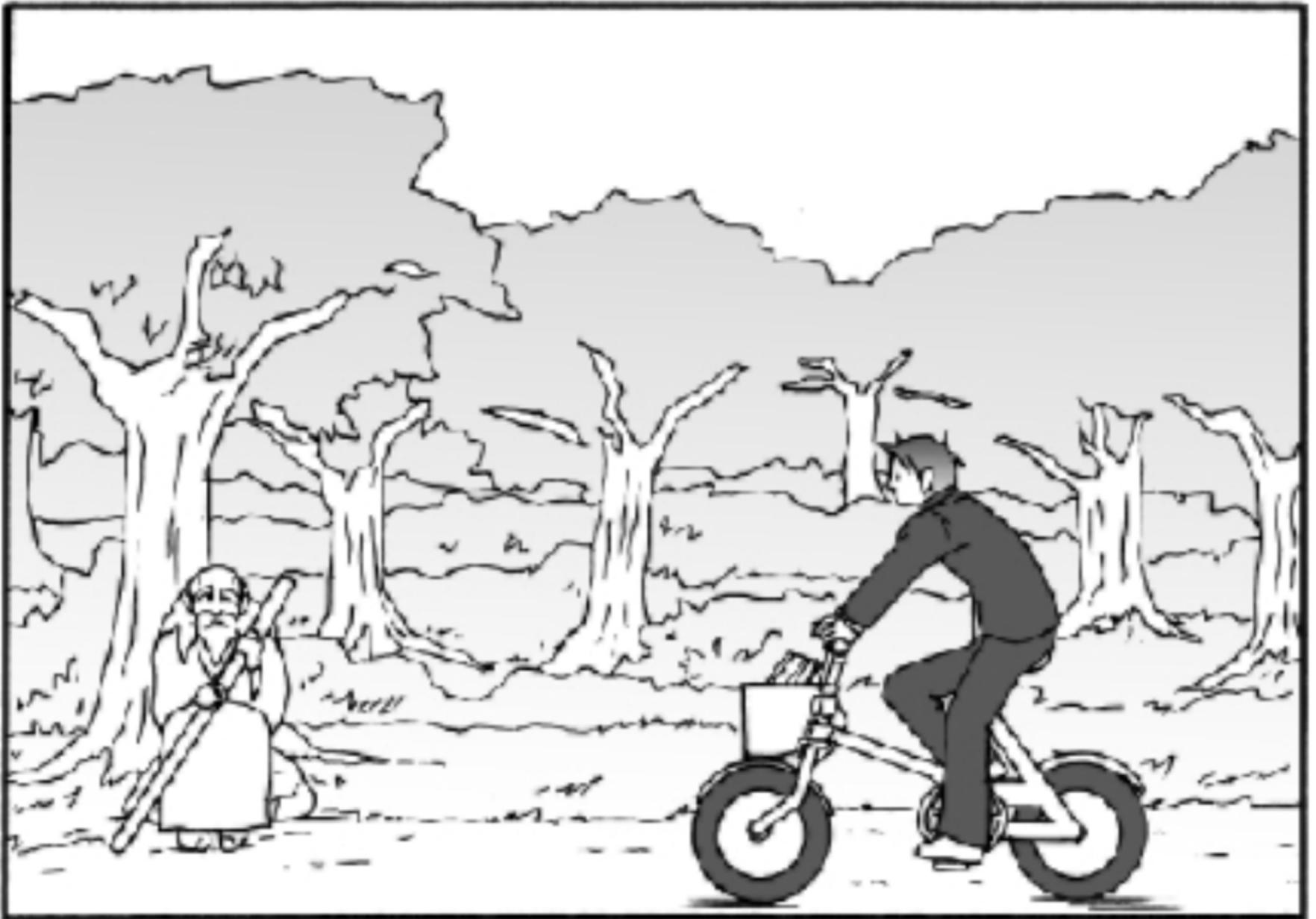
オヤジみたい  
に古いやり方じゃ  
なくてさ  
パソコンを使っ  
て合理的に…

これから  
ITの時代  
なんだよ



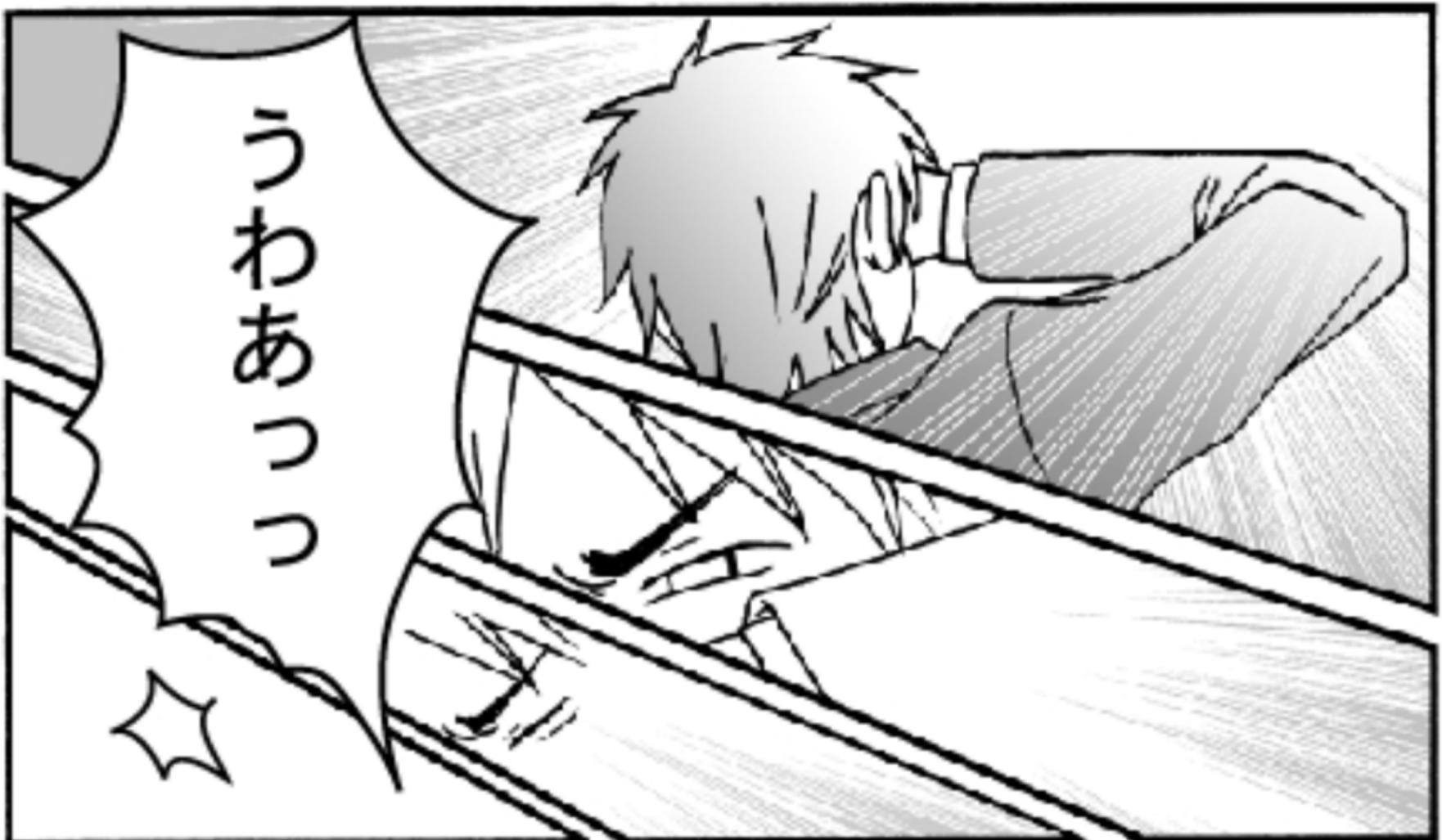
父親は  
マサハルに  
商売を教えよう  
とするが…

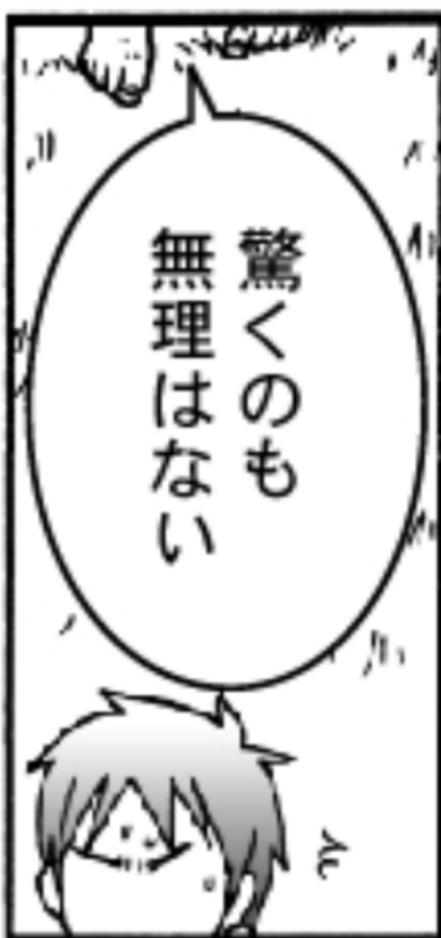








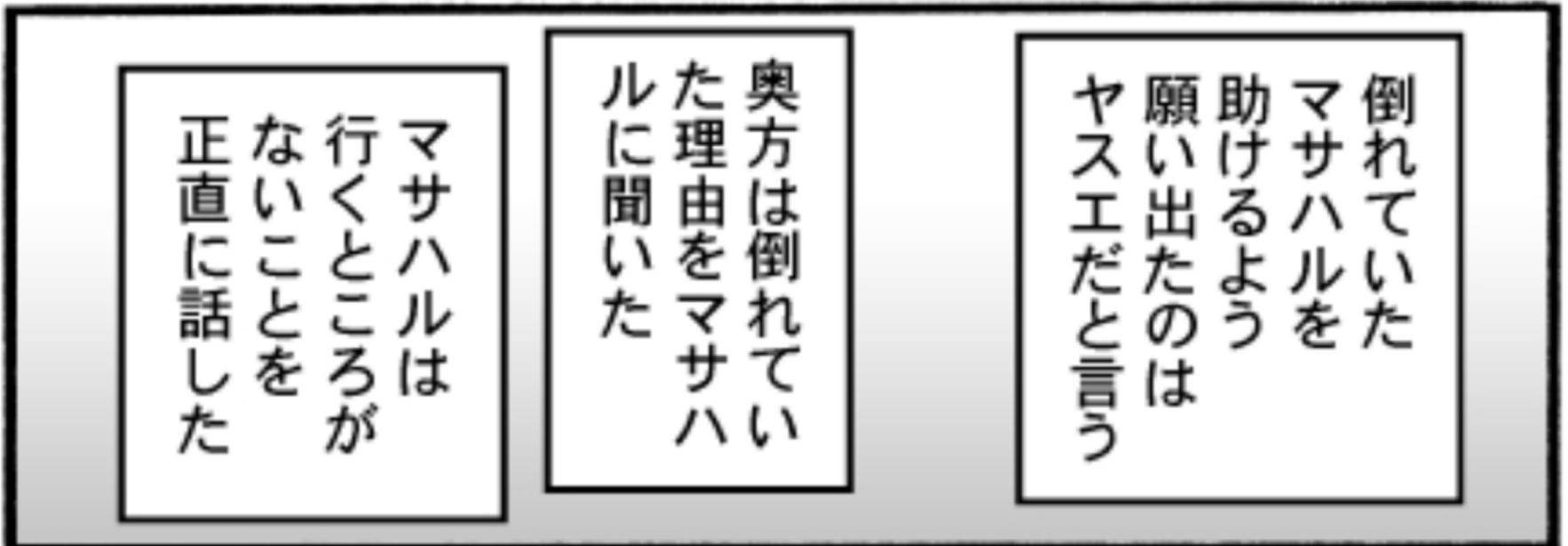












その日の夜



こんなところ  
に連れて  
きやがって！

早く戻せ！



！



しばらく  
ここで働いて

商人にとって  
大切なものが  
何かわかったら  
戻してやるぞ

スイッ



本当だな!?

やってやるよっ  
簡単さ  
商売なんて！



第二話



起きろー！

丁稚・ショウゾウ

新入りの  
癖にいつ  
まで寝てる  
気だ！

お前は  
ここを  
掃除しろよ！

学校での掃除  
当番もサボっ  
てばかりいた  
マサハルは

ぞうきんがけ  
も満足にでき  
なかった







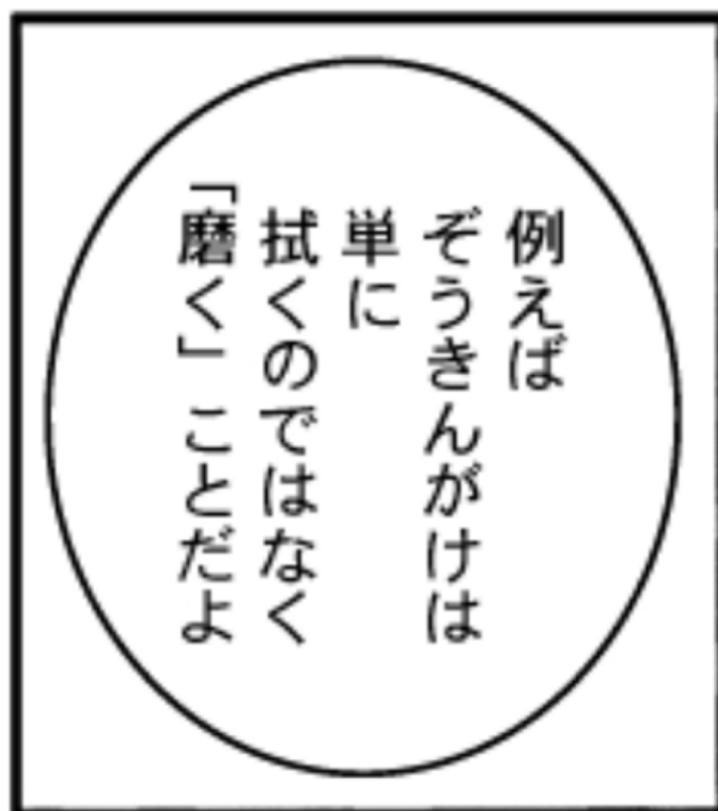
困ったやつ  
がきたもの  
だ















あの子を  
立派な商人にする  
のはシゲさんの役目

しっかりと  
頼みますよ

はあ……

やれやれ……

よっっ

ザッ

ザッ

あ……

またかよっ  
ちくしょーッ  
ザッ



そして翌日も  
その翌日も

マサハルは  
毎日掃除を  
させられた

しばらく経つと  
拭き掃除にも  
気合いがこもり

しっかり  
磨くように  
なっていた

また 汚れている  
ところを自分で見つける  
ようになっただけでなく

気付くと  
すぐに  
きれいにする

そして  
道具も大切に使う  
ようになった

以前に比べると  
だいぶ変わって  
きていることは

誰が見ても  
明らかだった

第三話

近江商人は行商を  
基本としている



そして出先で  
物を売っては

そこで  
その土地の物を  
仕入れる

そして  
それを  
また違う  
場所で  
売る



こうすることで  
商品の流通  
だけでなく

情報の流通にも  
貢献していた



つまり行商人は  
色々な人と  
信頼を築ける  
『人格』と



商才という『能力』  
の両方が必要  
だったのである

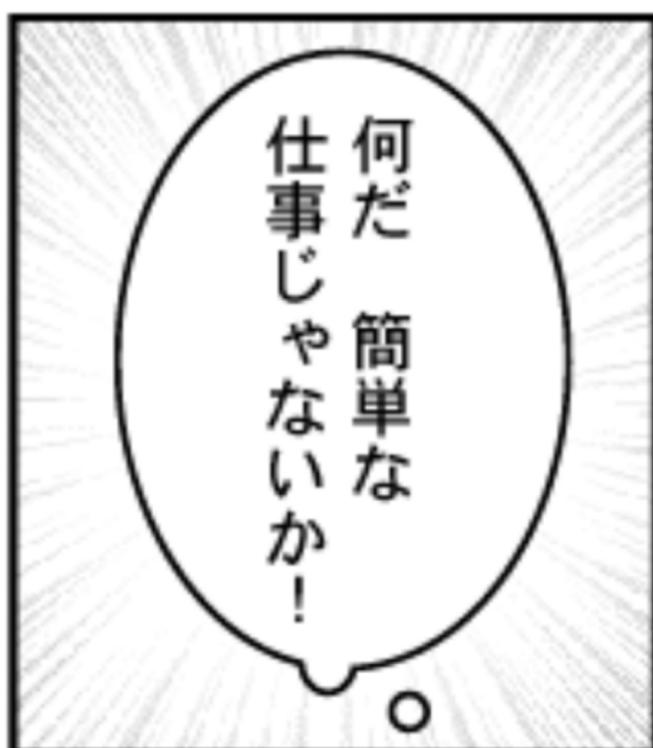


これらの基本は  
お店で働きながら  
身につける





では まずは  
しばらく見ておけ



何だ 簡単な  
仕事じゃないか!



一度  
やらせてやれ



調子に  
のるなっ



俺にも  
やらせて  
くれよ



張り切る  
マサハル



よし！  
完璧に  
やってやるっ！



これ違う  
じゃないっ！

苦っ

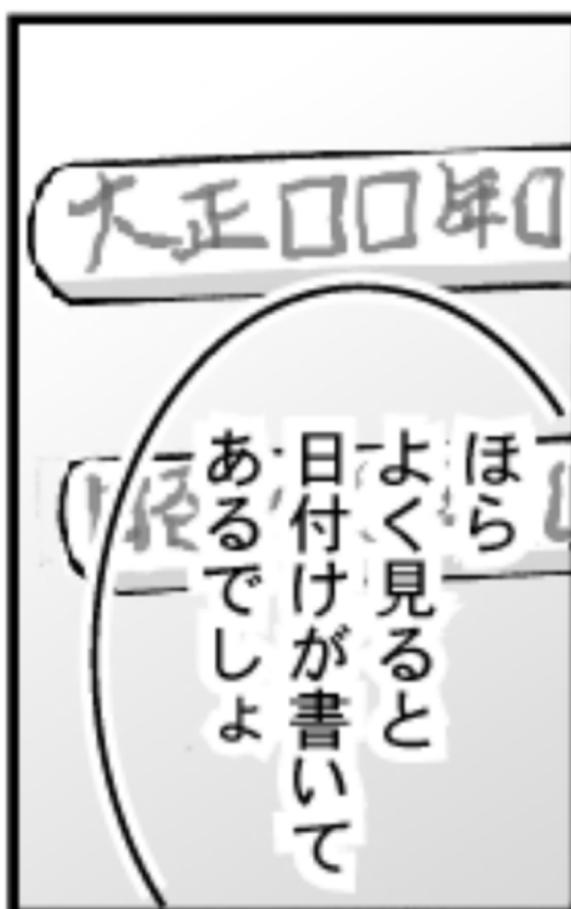
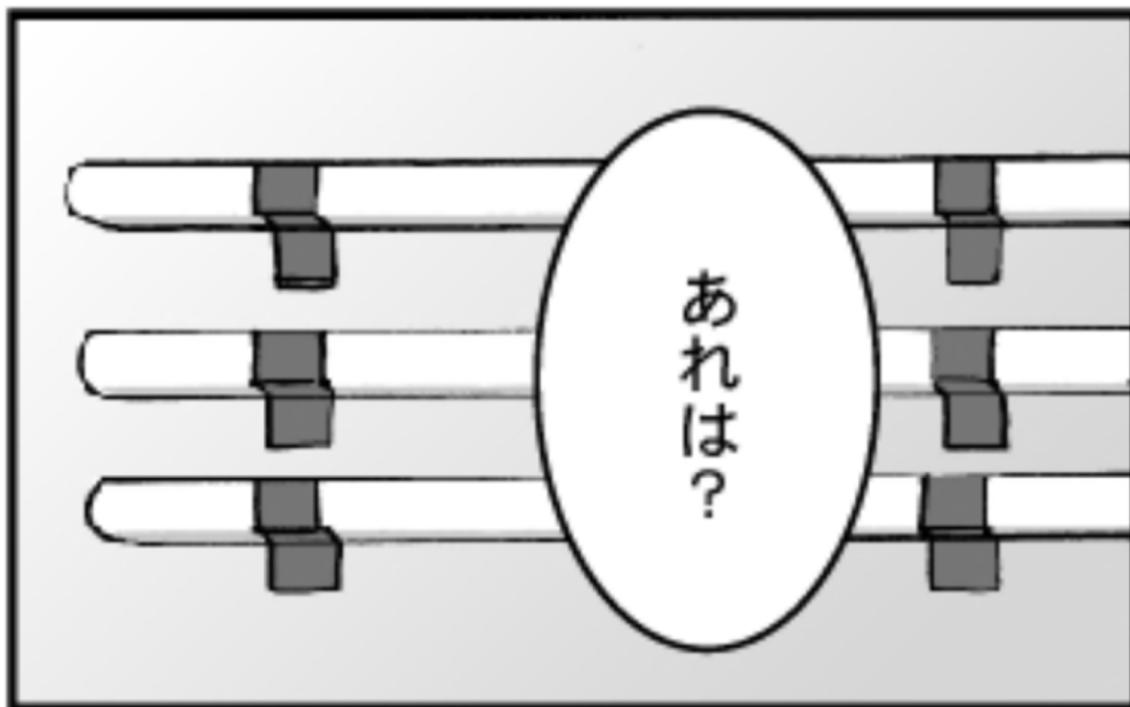
ガホッ

商品は間違え  
るは と散々  
失敗をした

しかし  
お茶も満足に  
入れられず  
盆はひっくり  
返すは…









翌日から  
マサハルは  
仕事に精を  
出す



しかし  
やる気とは  
裏腹に  
失敗ばかりが  
続いていた

何やってんだー!

そうじゃ  
ない!

...

...



そんな日が  
何日も何日も  
続いた

...

マサハルは  
早く結果を  
出したくて

手柄をたてる  
ことばかり  
考えていた



なあ  
マサハル

それを見かねた  
シヨウゾウは  
ついに声をかける



マサハルは  
何もわからない  
のに自分のやり方  
にこだわり続ける

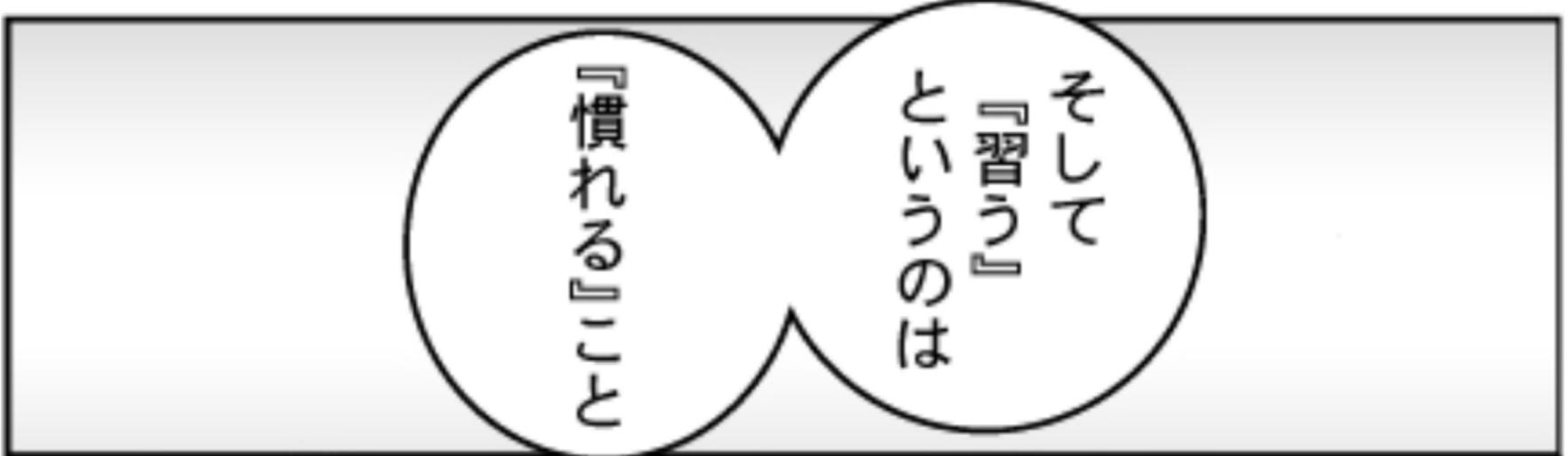
だからいつまで  
経っても失敗を  
続けることを  
シヨウゾウは  
見抜いていた

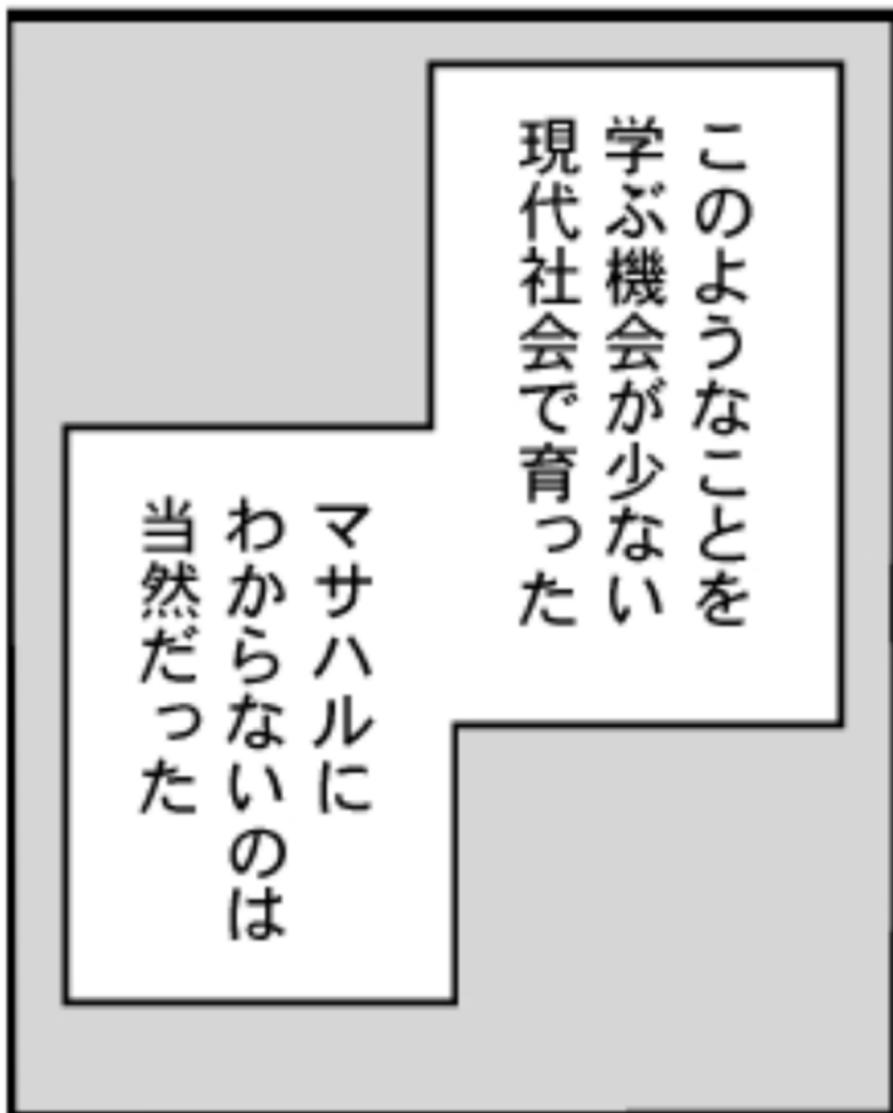


最初は気にも  
とめなかったが

頑張っているのを  
見て助ける気にな  
ったのだ







第四話

ありがとう  
ございました

さて…  
閉店するか

おーい早くいっよ

はい

店が終わったら夕食

夕食後は  
夜遅くまで勉強

そして  
朝は早くから

掃除や店の準備など

一人前の商人に  
なるための道のり  
は決して楽ではない

シヨウゾウ  
から  
アドバイスを  
貰った  
マサハルは

日に日に  
成長していった

しかし

早く一人前の商人  
にならないと  
もとの世界に  
戻れない……！

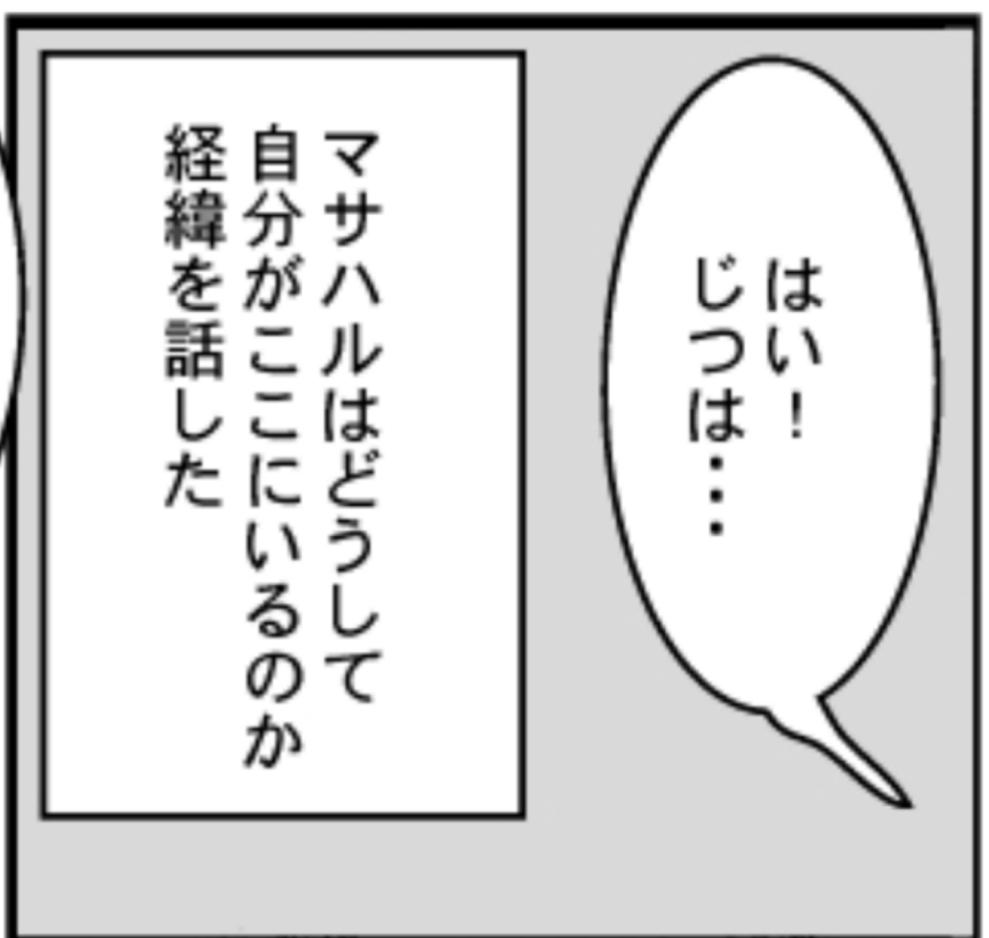
心の中では不安と  
焦りの気持ちで  
いっぱいだった  
のである

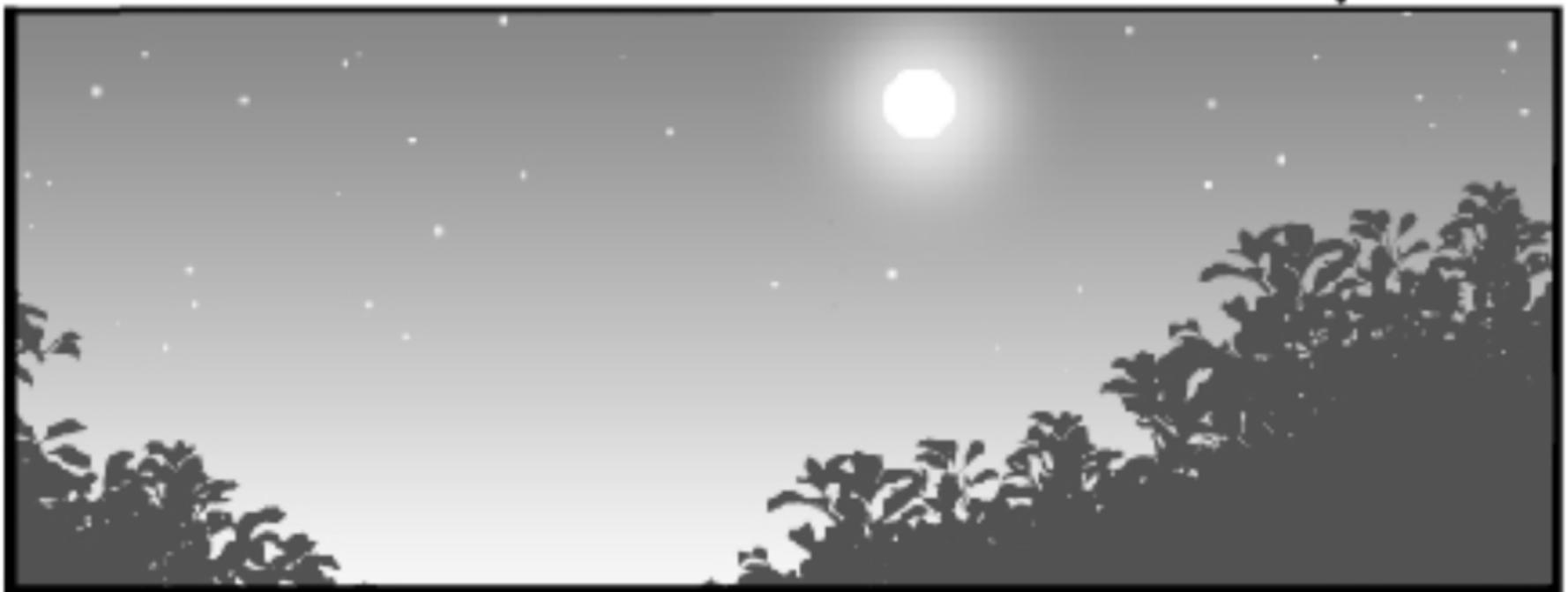
そんなある日

お願いです  
次の仕事に  
進ませて  
下さい！

ばっ

だめだ













それになんでも泣きながらお願いすると

聞いてもらえるなんて思われると

それはマサハルさんにとつて

良くないことだつて考えたと思うの



な、

なるほど

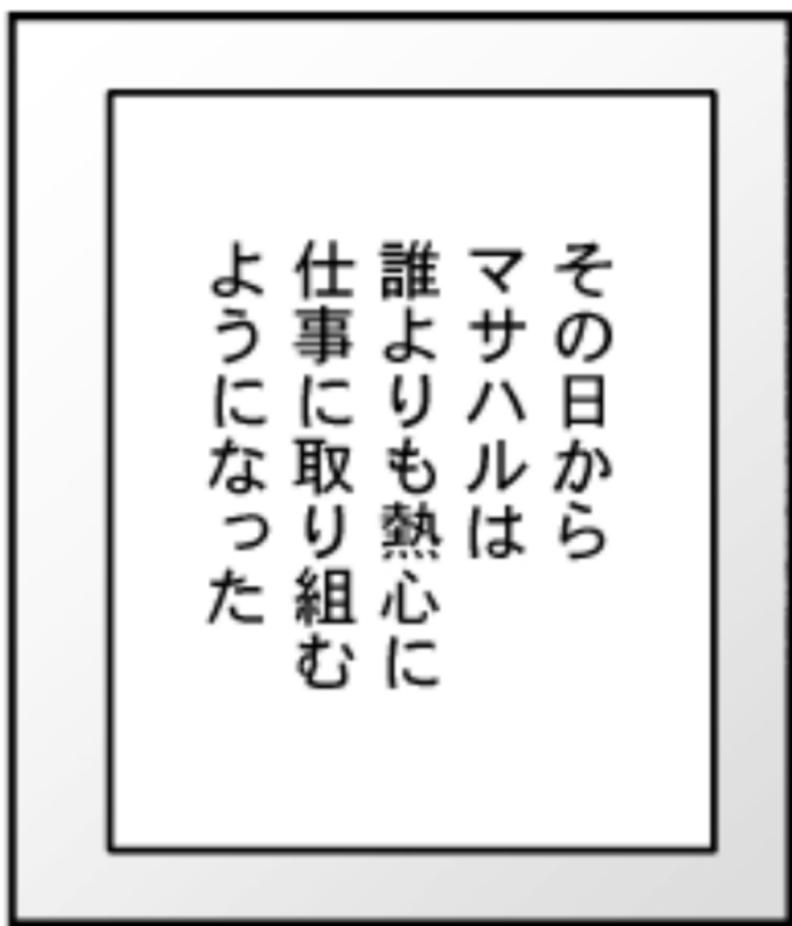
つまり

マサハルさんの本気度合いが試されてるのよ

...



...わかったよ



第五話

世の中には言葉では  
ごまかせても

本当？

困ったら  
助けて  
あげるよ

行動はごまかす  
事はできない

そして行動から

うまれる

信頼関係は

任せてくれー！

とても硬く強いものだ

だから本物の商人は  
日頃の行動を  
何よりも大切に考える

おはよう  
ございます

手伝いま  
しょうか

話がそれるが

これは一流アスリート  
と似ている

一流アスリート達  
は他人からの評価  
ではなく

もう今日は  
そのくらいで  
いいんじゃない？

あくまでも自分が  
本当に納得できる  
ところまで

毎日  
訓練する

そして自分が  
納得できるレベル  
が他人よりも高く

他人からの評価に  
関わらず行動し  
続けているからこそ

自分が望む結果が  
後からついてくるのである

本物の商人も  
これと同じで

『欲しい結果』を  
得るために行動する  
のではなく

日頃の素晴らしい  
行動により

後から  
『欲しい結果』が  
得られるのである

しかしこうして  
『欲しい結果』を  
得ようとする

とても時間が  
かかる場合が多い

だから  
マサハルの場合も

どうせ長続き  
しないよ





確かに最初は  
自分の時代に  
戻りたくて

その一心で  
頑張っていました

でも今は  
それよりも

本当に本物の商人に  
なりたいたんです



なんとマサハルは  
自分の行動が

自分の心の中まで  
をも変えてしまっ  
ていたのである



最初は  
イヤイヤでも

次第に本気になる  
ことは良くある話だ

シゲは心中  
とても喜んだが

そうか  
まあ頑張れよ

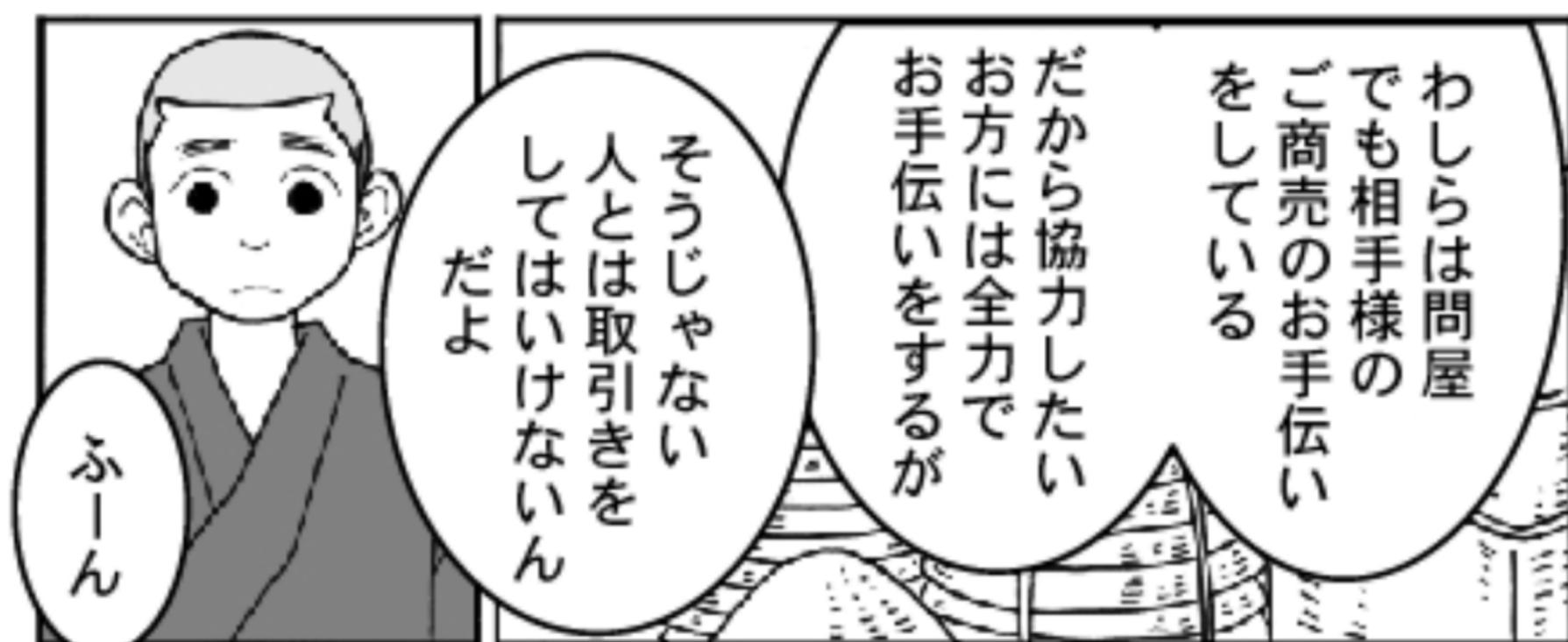
それを  
悟られまいと  
無表情を装った













そんな態度の  
やつに  
売ってくれる  
わけないだろう！

お前は  
問屋さんを  
何だと思って  
いるんだっ



問屋さんは  
俺達の仕事を  
支えてくれる  
大切な仲間だ  
そんな人に  
なんて失礼な……

内では頑張って  
いたのに

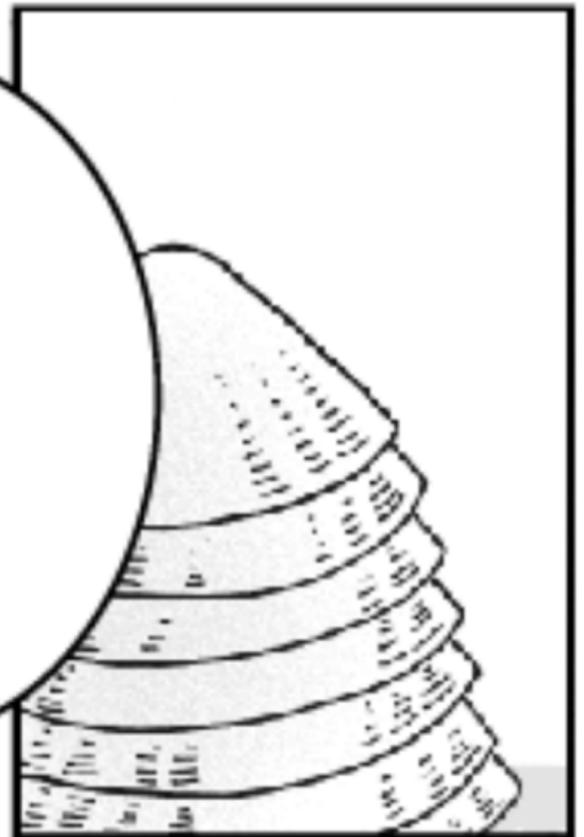
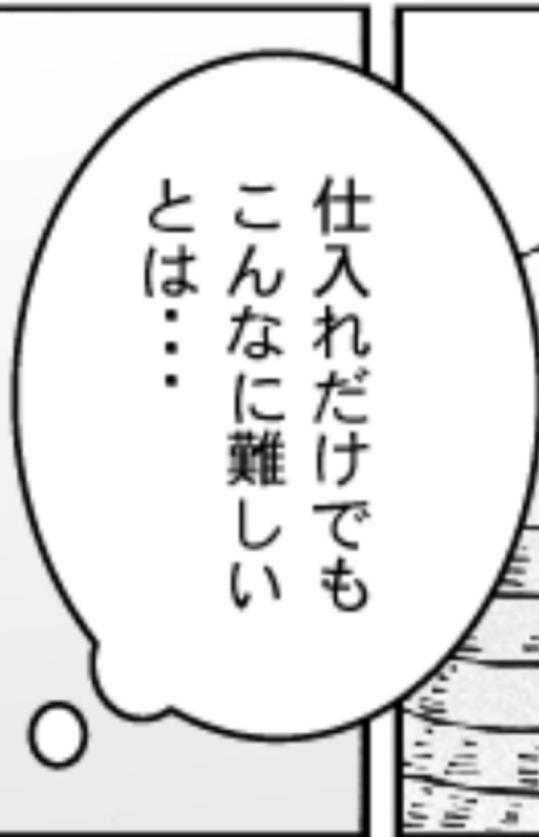
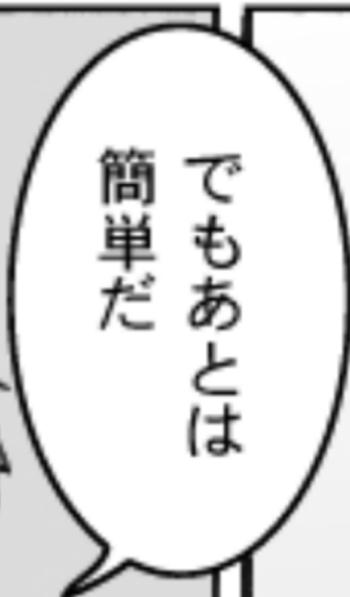
外に出た瞬間  
調子にのった  
ってわけか



新しいことをやる  
時はその人の  
真価が  
問われるんだ

とにかく  
外でも  
一生懸命  
頑張りなさい

マサハルは自分の  
軽率な行動が  
悔しくて涙が  
止まらなかつた





あの家から  
声をかけよう

よし！



ホギヤ  
ホギヤッ

！



すみませーん  
笠はいかが  
ですかーっ！



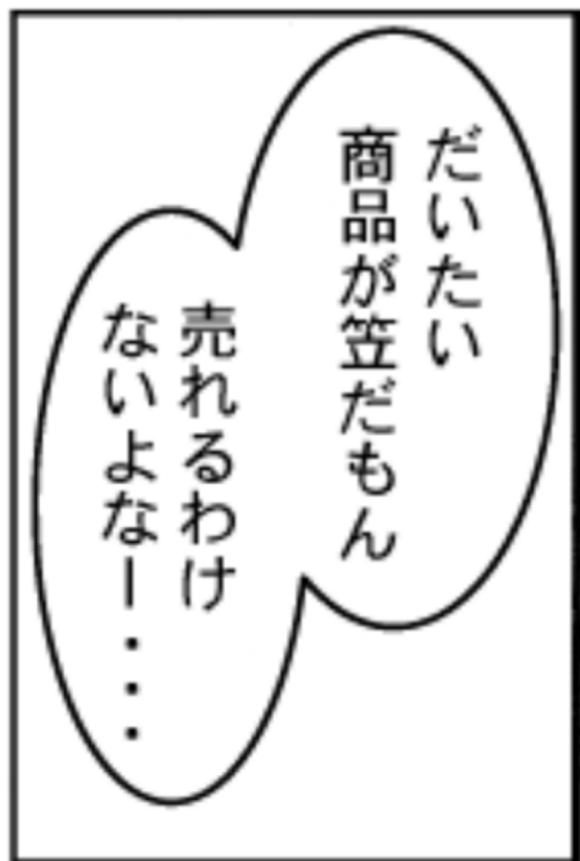
なんだいっ  
いきなり！

やっと寝付いた  
とこなのに

すみません  
笠を買って  
貰おうと  
思っで…

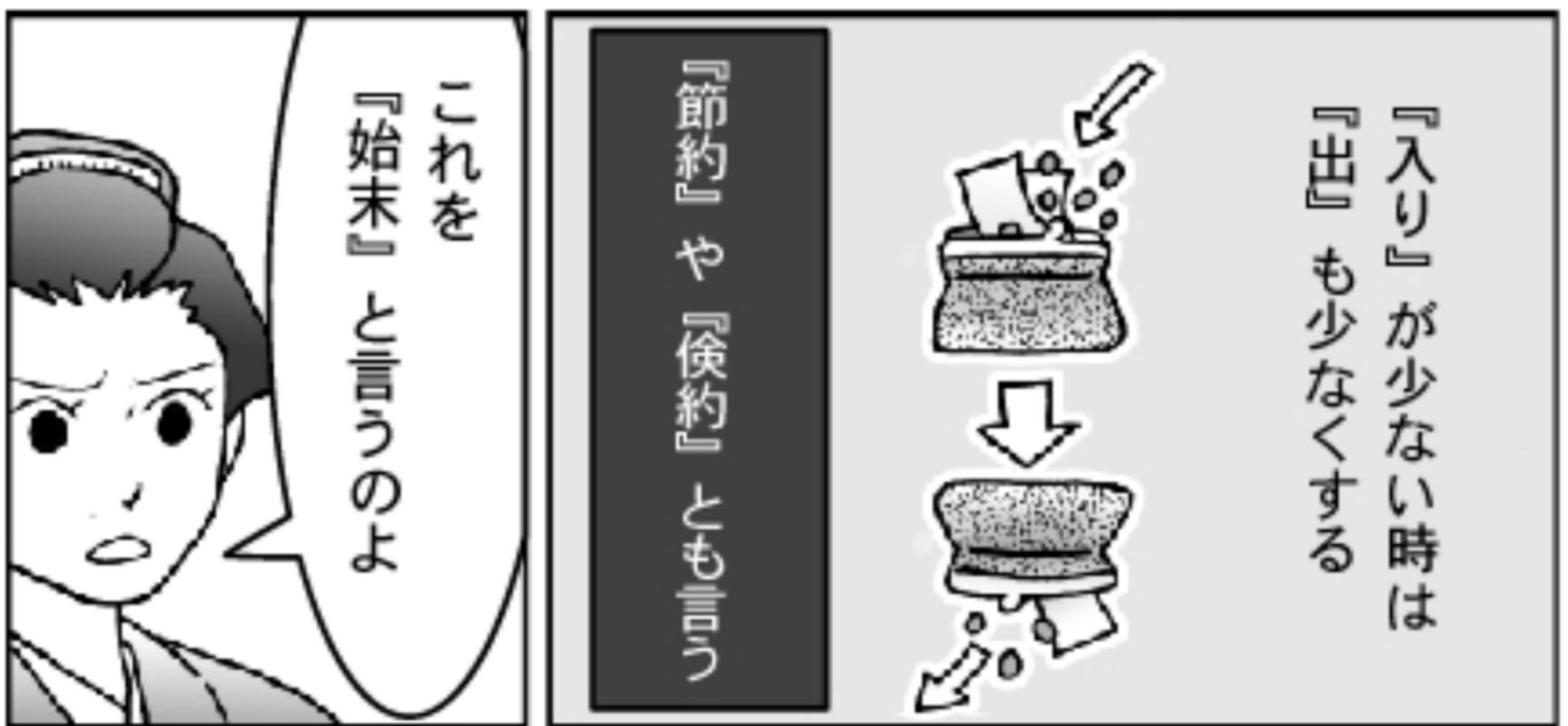


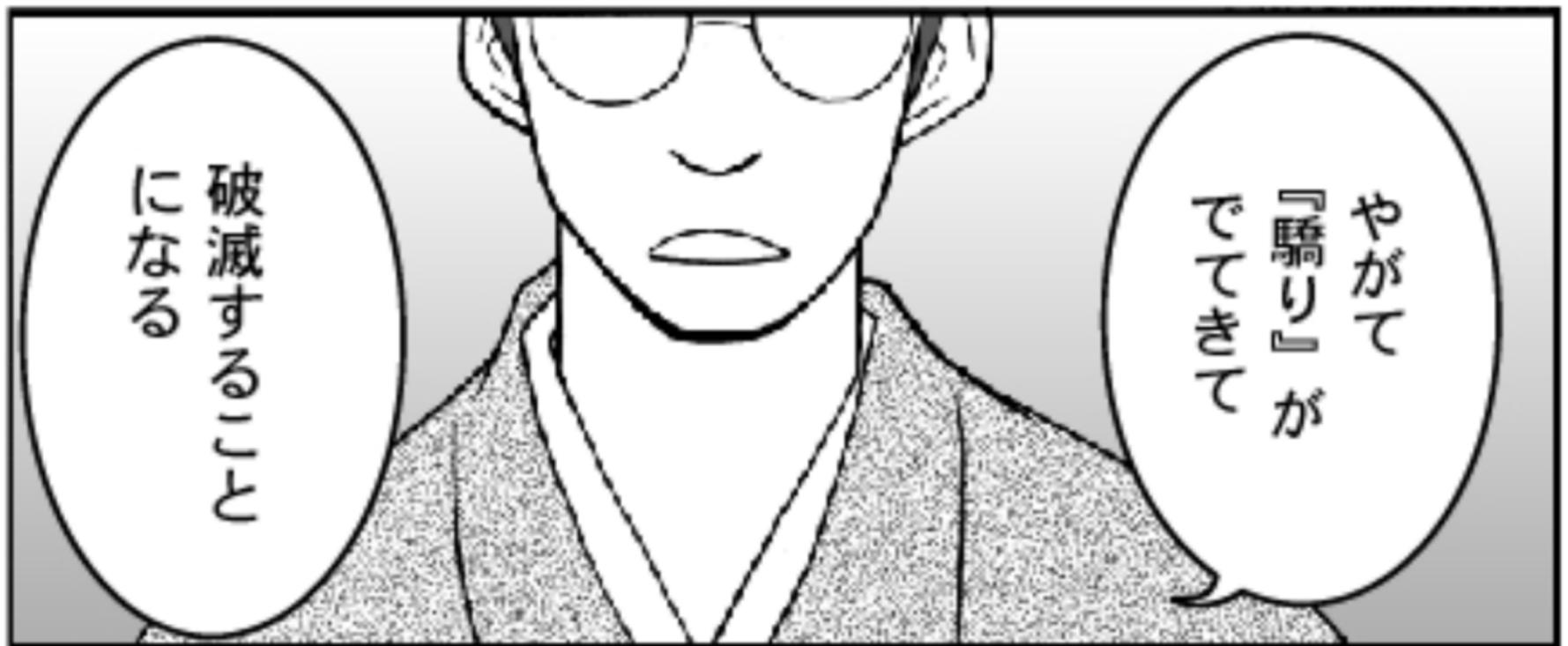












破滅すること  
になる

やがて  
『驕り』が  
でてきて



『入り』が少ない時に  
極力『出』を押さえて  
下さったおかげで

先代もそのまた先代も



ムンッ



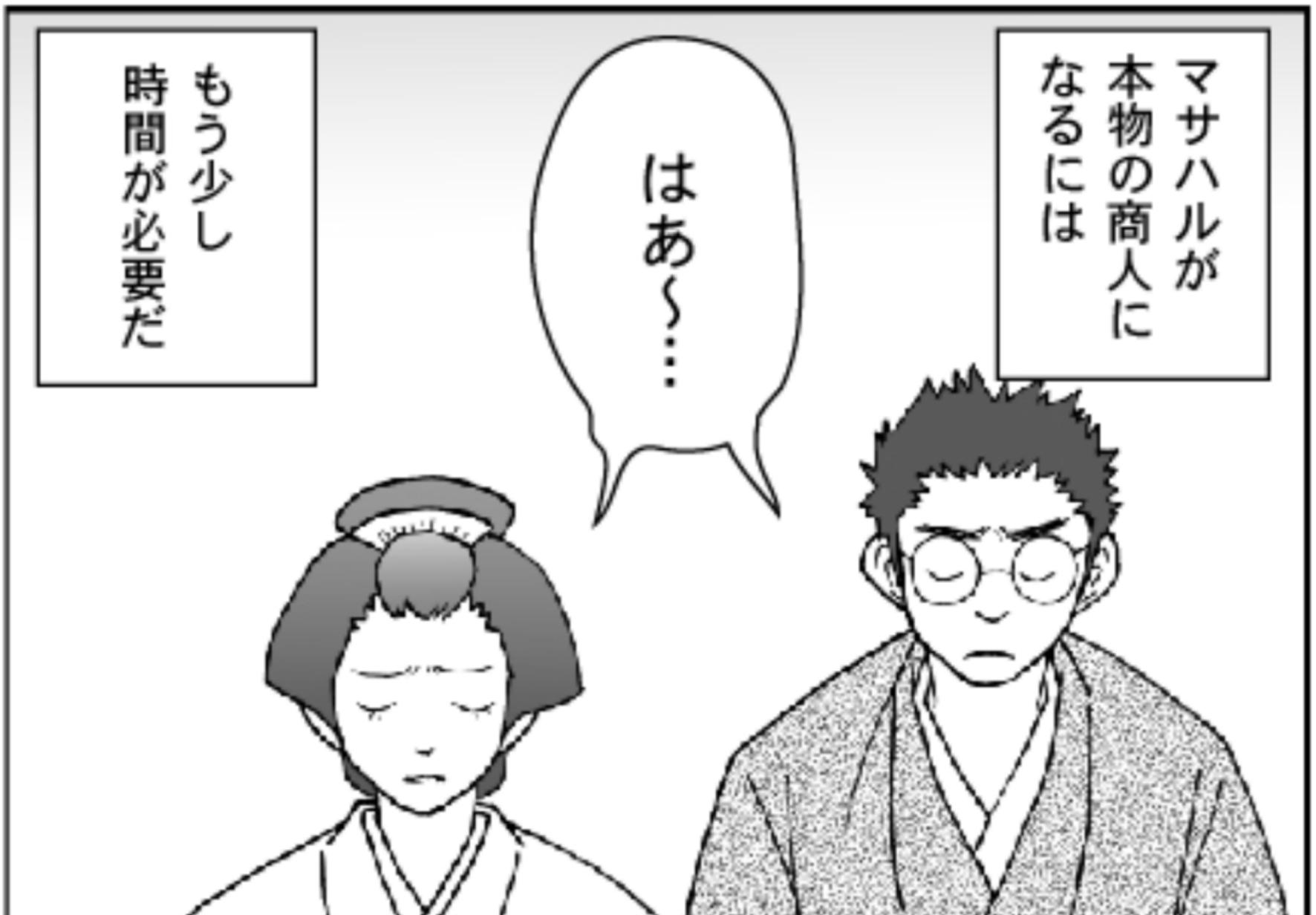
お前くらいの  
歳なら

これくらいは  
わかっていると  
思っていたが…



今の私達が  
あるのですよ





第七話

翌日からもマサハルは  
手当り次第に街中を  
まわるが

笠はいっこうに  
売れない

怒鳴られたり

追い返され  
たり散々である



天秤棒の重みが  
ずっしりと肩に  
食い込んだ

くそう…  
何で売れないんだ…

わははっ  
あはは



そうか  
笑顔か



マサハルは  
家々をまわる時  
コミュニケーションを  
とろうと心掛ける  
ようになる



一生懸命笑顔を  
浮かべもみ手をしながら  
話しかけた

しかし

ビジネスの笑顔は  
“ニコニコ”であり

“ニヤニヤ”  
するのとは違う

現代でも自然な  
“ニコニコ”顔は  
少しの訓練を  
必要とするが

ニヤニヤ

全く経験のない  
マサハルには  
出来るはずも  
なかった



なんだ君はっ

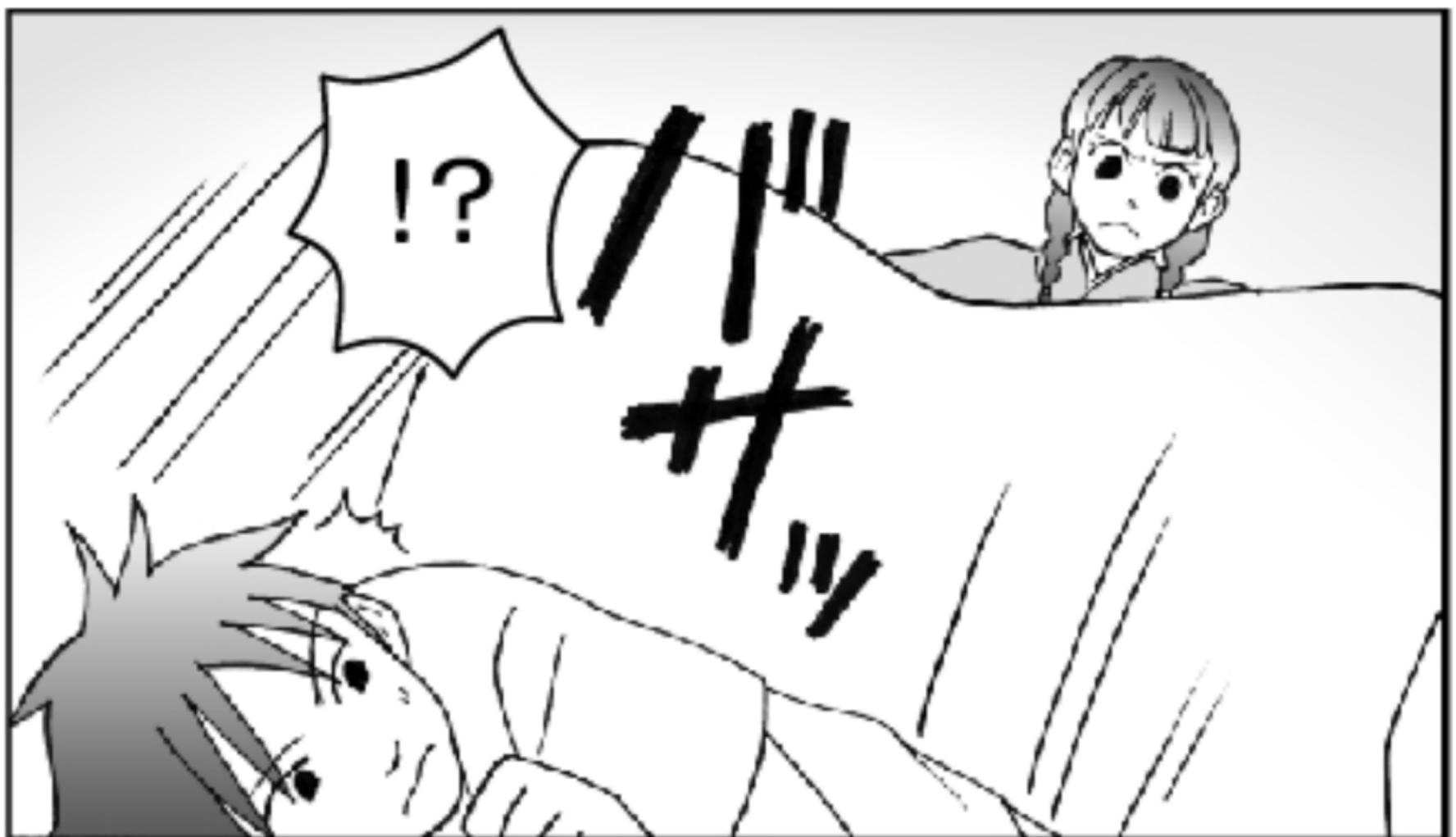
当然…

ニヤニヤするな  
気持ち悪い!

と  
追い返される  
だけだった

ちくしょう

いったい  
どうすりゃ  
いいんだよっ











そう言うとお坊さんは  
去っていったよ

そして  
しばらくその木を  
見ていた

買ってくれない人  
を恨み

売れない商品を恨み

面白くない日が  
続いていたが

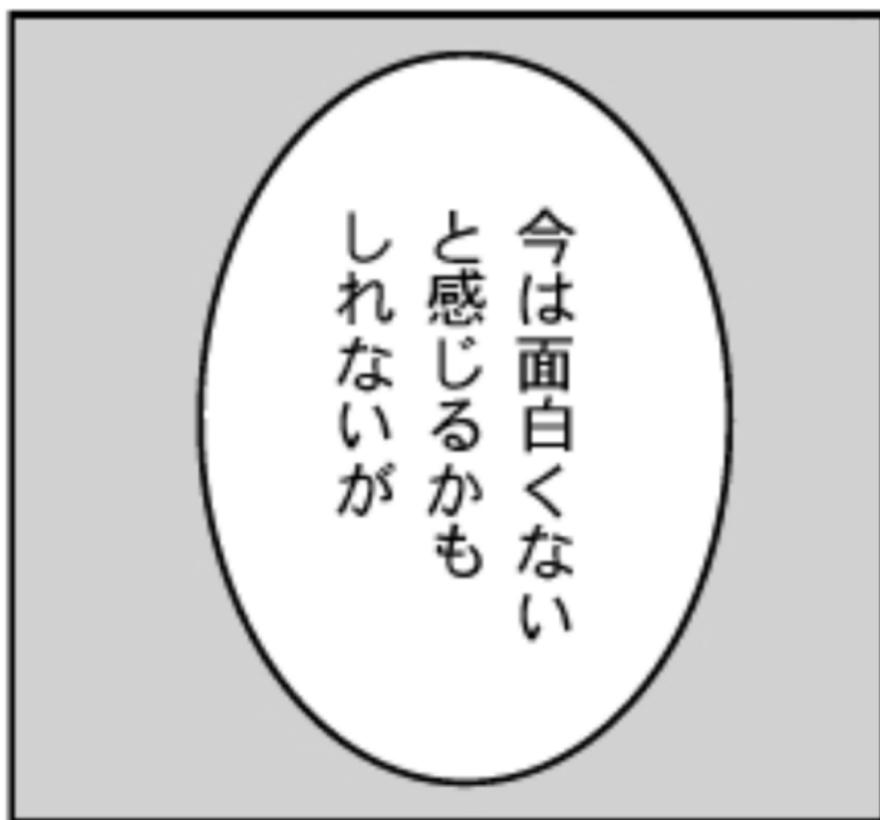
全部自分が  
そう考えてる  
だけだと

気がついたんだな

それに気付いて  
からさ

俺が人様に  
物を買って  
頂けるように  
なったのは

ふーん



第八話

商人の中でも  
成功する人と  
そうでない人  
がいる

人にはそれぞれ  
『運氣』というもの  
があつて

『運氣』が  
上がれば  
必ずあとから  
成功がやつて  
くる

『運氣』が上がる  
前に成功を手  
に  
してしまつと

その成功に  
よつて  
『運氣』が  
下がつてしま

前より酷い  
状態になる

だから  
近江商人は  
日頃の行動に  
とても注意を払う

成功してお金  
持つてるんでしょ

ちよつと  
くちい

そして  
その行動の  
価値基準となるのが











風呂場いっ  
てきます



川に落ちました

うわっ  
どうしたんだ!?

びしょ



買って  
もらえば  
よかった  
かなあ……

やっぱり  
格好つけずに



うーん



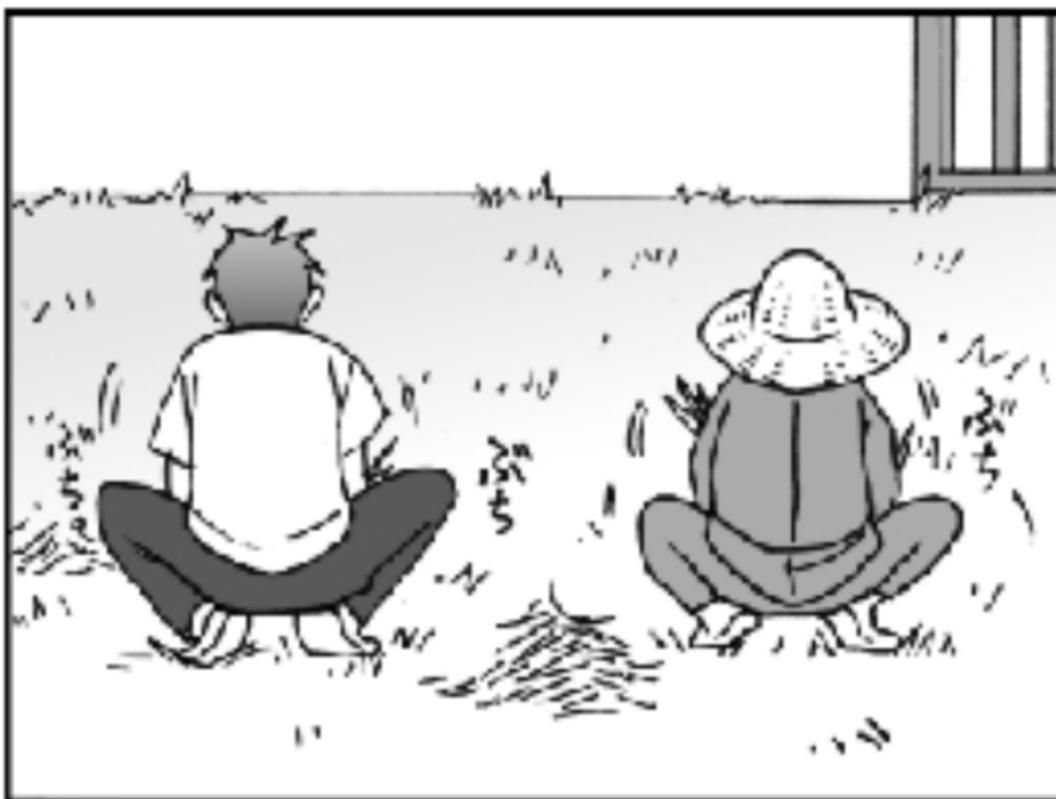
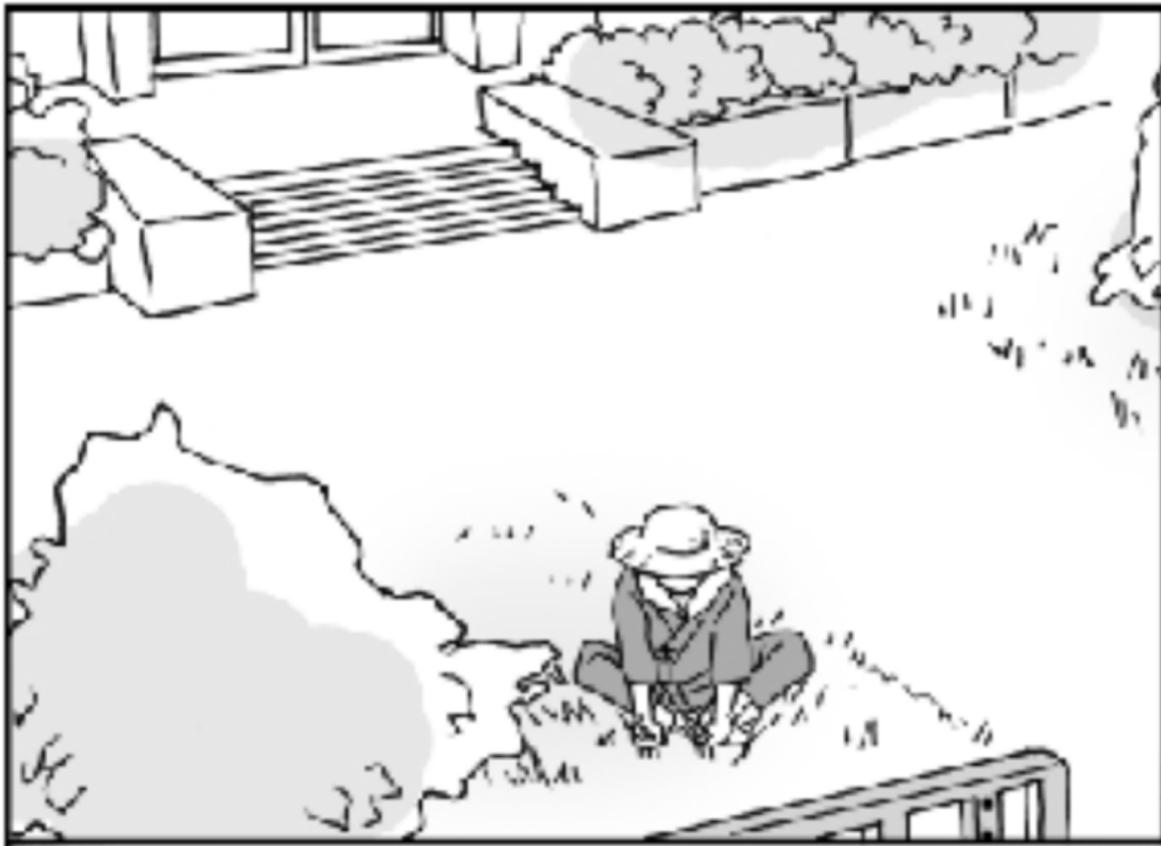
もう寝よう

マサハルはあの  
行動が『運氣』を  
あげることに  
気付いていない



まあ、  
いいか

はあ……





あ、はい



良かったら  
茶でも飲んで  
いかんかね

今日はこの位で  
いいだろう



ここは  
学校なのか

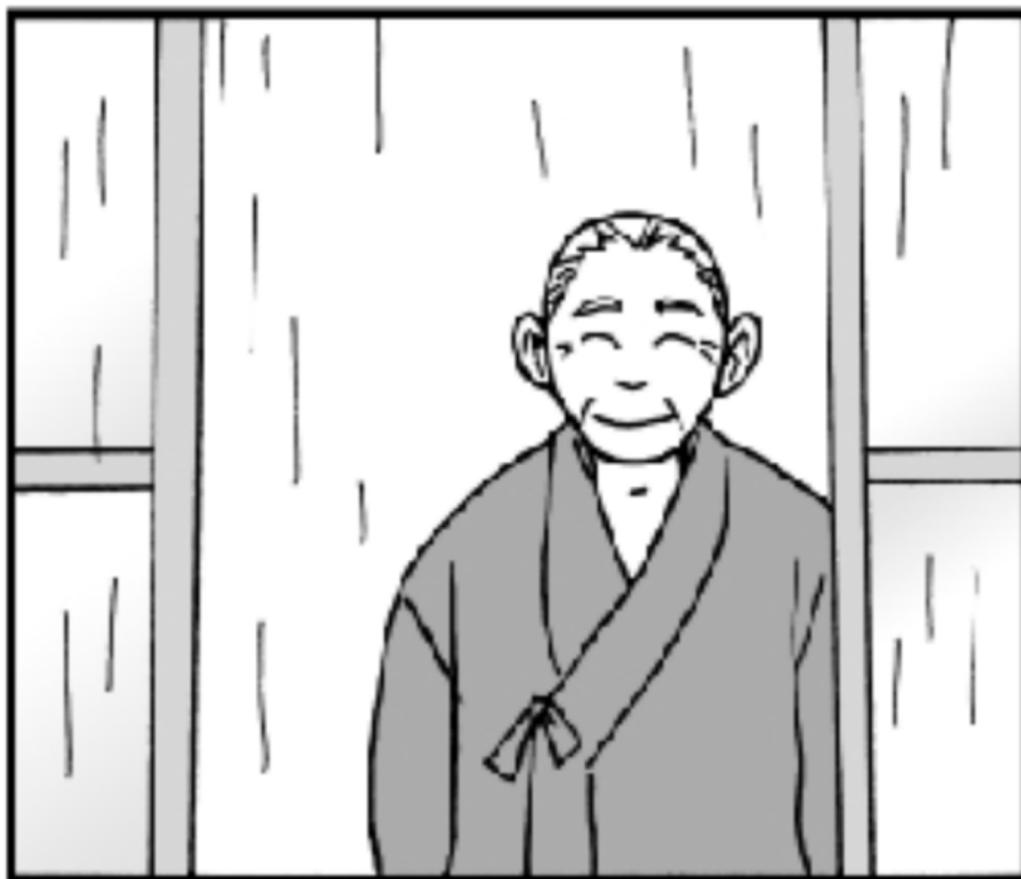


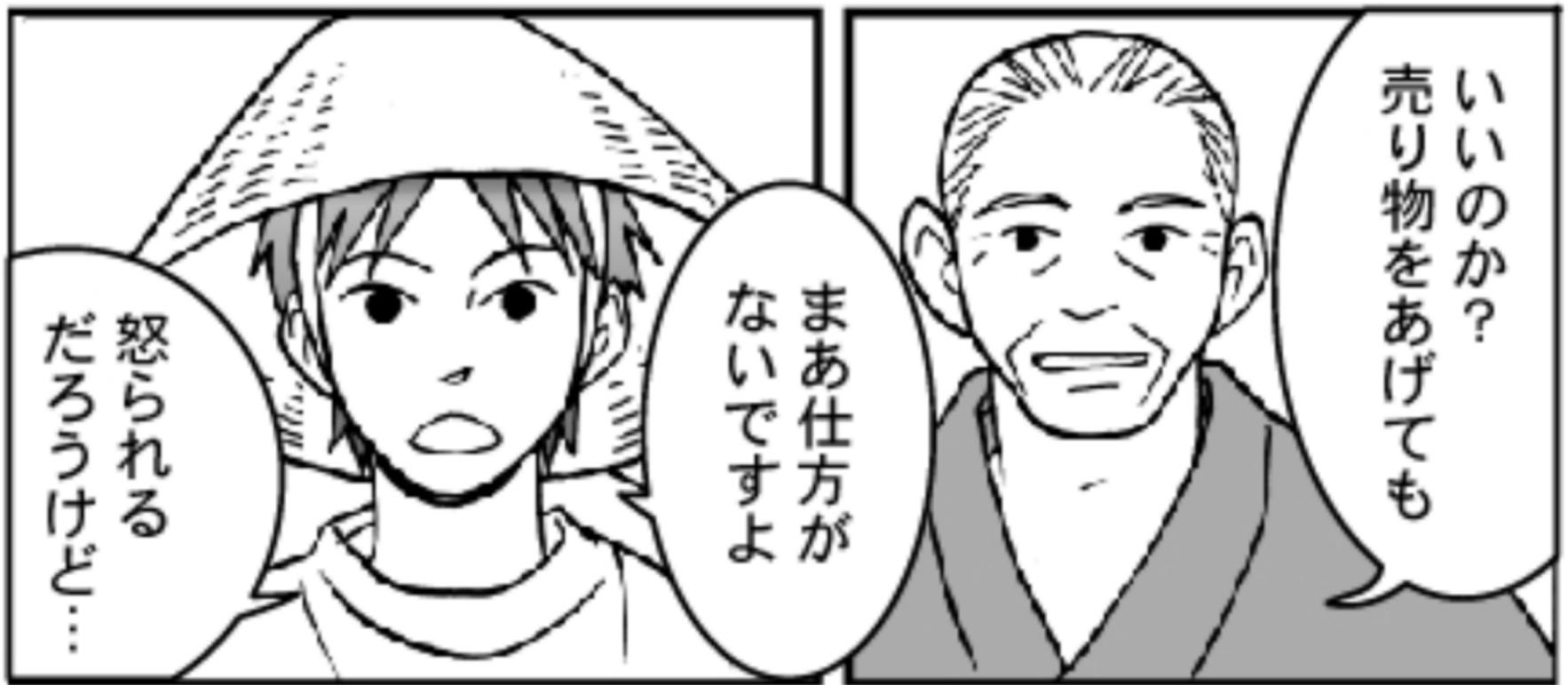
じゃあ僕は  
失礼します

ああ  
今日はありがとうね



ん？雨が降って  
きましたね















翌日から  
マサハルは

自信を持って  
行商した

明るく誠実な人柄が  
評判となり笠は  
売れるようになった



天秤棒に残る  
汗と手あかの跡  
それは

マサハルの  
成長の証し  
でもあった



その夜  
マサハルの枕元に  
あの老人が  
立っていた

顔つきも  
変わったな

そうですか



最後に  
皆さんに  
挨拶をさせて下さい

あのっ



そろそろ  
戻ろうか

えっ



そ、  
そんな……



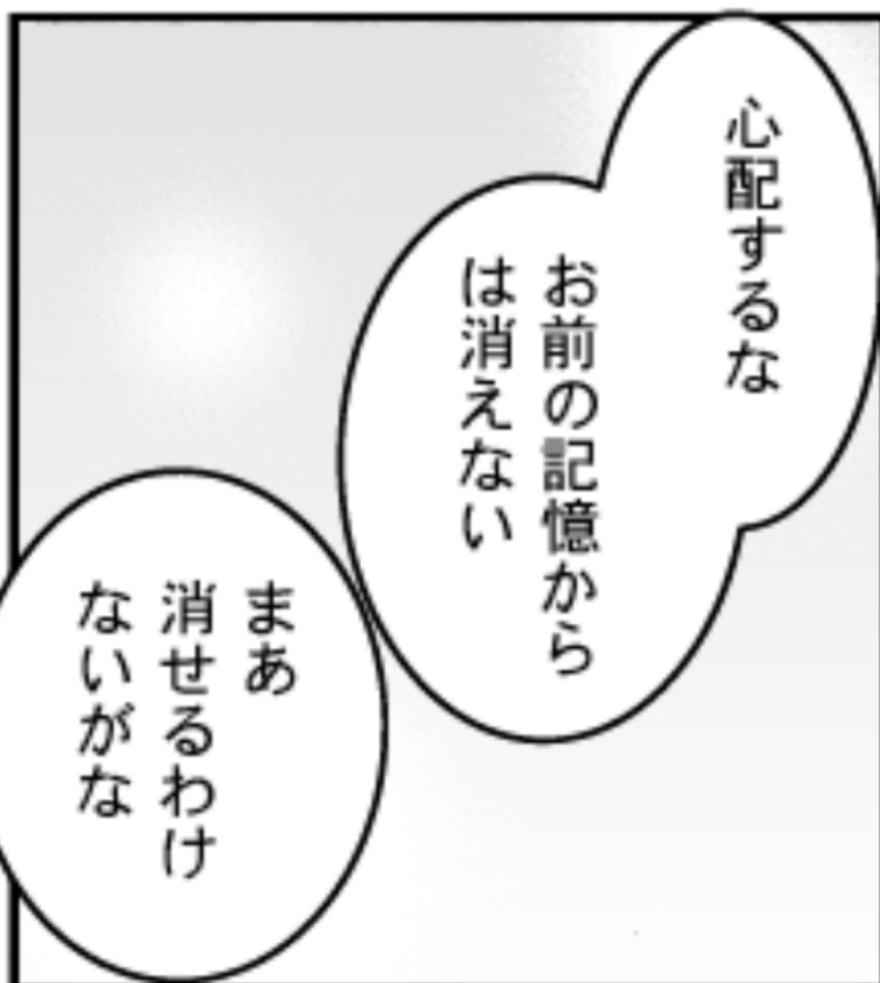
お前が元に  
戻れば

お前のことは  
皆の記憶から  
消えるぞ



じゃあ……  
せめて天秤棒  
だけでも持って  
行かせて下さい

うーむ……  
その位は  
いいだろう



心配するな

お前の記憶から  
は消えない

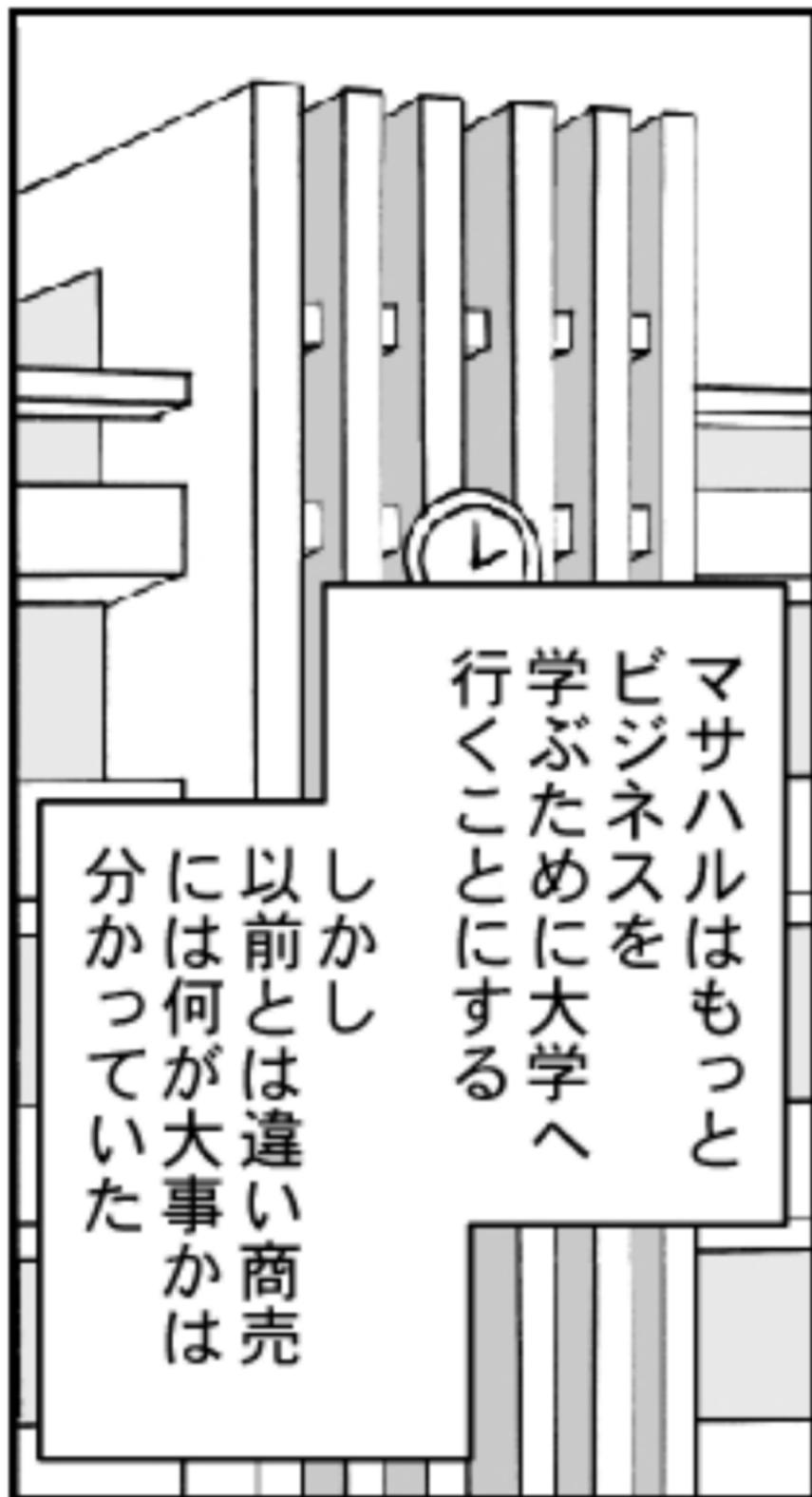
まあ  
消せるわけ  
ないがな





戻ったマサハルは  
常に商人としての  
自分を意識する  
ようになった

それまでとは  
うって変わって  
父の言う事を  
良く聞いた



マサハルはもっと  
ビジネスを  
学ぶために大学へ  
行くことにする

しかし  
以前とは違い商売  
には何が大事かは  
分かっていた



自分の事だけでは  
なく 人の事も  
考えるように  
なった

マサハルは部屋に貼ったものを見て事ある毎に初心を思い出している



そしてあの天秤棒はマサハルの明日を示す道標である

売り手良し  
買い手良し  
世間良し



終わり